

おのきた

# 尾北校長室から

第33号



## 別解のススメ ～ネギの話

疑問をもとう、という話をしたい。まずは最近、私がかもった疑問から。「野菜は体にいい」というので、昔からよくキャベツをかじっていた。近頃は袋入りのカット野菜も見かけ、手軽に口にすることができるのでよく買うのだが、そのスーパーの野菜コーナーでキャベツの隣に陣取っていたネギについて、ふと湧いた疑問である。——ネギの緑の部分は葉のようだが、**葉なら表裏があるのか？**



**外側は表に見えるが、本当にそうなのか？** ——例えば、アサガオの葉の表裏であればすぐに区別がつくだろう。ネギの葉は筒状になっており、他の植物の葉のように表裏の区別がつきそうにない。さて、皆さんならどう考えるだろうか？



こうした時には、そのものの「定義」を調べてみるとよい。葉の表と裏についても統一した考え方があり、植物は「**茎と向かい合っている面が表**」と決められているようだ。例えば白菜の葉の外側は、この定義を知れば、裏ということになる。

ネギに戻ろう。ネギのような葉を「単面葉（たんめんよう）」というのだそうだが、植物の葉は、若芽のうちは巻いていて裏側が見えている。白菜などは、いくつかの葉が巻いたままで大きくなったものである。ネギのような単面葉の場合、若芽の時に巻いたままの1枚の葉がそのまま大きくなったというわけである。前述のように、「**茎と向かい合っている面が表**」という、葉の表裏の定義に基づけば、ネギの葉の外側は、表ではなく裏だということになる。

ところで、物事にはたいていの場合、表と裏の二面がある。一面だけを見て判断することは、過ちを招くことになりかねない。時には「**本当にそうなのか？**」、「**他にはないのか？**」など、別な角度から見たり考えたりするようにしたい。「**批判的思考(Critical Thinking)**」と呼ばれるもので、特に多様な価値観が並立する現代では「**別解を考える柔らかい頭**」が重要となっている。「唯一の正解」というものがない、いろいろな答えがあってよい時代だからである。

また、現代は地球規模の競争の時代である。そこでは発想力や創造力が重要視され、いかに**他と違うように考えたり他と違うものをつくらたりできるか**が勝負の分かれ目となることが多い。皆さんは、やがてそういう社会で生きていくこととなる。日頃の授業では、「本当にそうなのか？」と疑問をもったり、「こんな考え方はどうか？」と別解を考えたりすることで、思考力を鍛えておく必要がある。授業の中で幅広い見方・考え方を養うことは、入試の問題を解く際に役立つだけでなく、これからの社会人として様々な問題や答えのない課題に対処していく際の大きな力となっていくはずである。

物事には裏があるといても、勉強に「裏ワザ」はない。何事にも言えることだが、勉強にも「**量と質**」の両面が大切である。皆さんには、① 勉強時間を確保し、② 集中して取り組む、ことを心掛けてもらいたい。日々の授業の中で、皆さんの批判的思考——疑問——が大いに働くことを期待する。

